

全国ノーバディス・パーフェクト (NP) ファシリテーター交流会 ～共に学んで、地域で活かそう！～

「全国NPファシリテーター交流会を終えて」 実行委員長 斉藤まり子

交流会には各地から多くの方にお集まりいただき、ありがとうございました。

当日は久しぶりに会う方、懐かしい顔ぶれ、もちろん初めてお目にかかる方もいらっしゃいました。お元気でしたか？頑張ってますか？と挨拶が交わされ、華やいだ雰囲気の会場になりました。

全国交流会はトボスの会が発足したところからの願いでした。その願いをずっと持ち続けて、そしてリソースセンターの心強い後押しもあって、今回の実現につながりました。

実行委員 10 名に伊志嶺さんが加わり、会を立ち上げたのが昨年 8 月、実施日までに 10 数回の実行委員会を持ちました。課題は山積みでしたが、やはり皆さんファシリテーター、それぞれの意見を尊重しながらも自分の意見はしっかり持ち、責任をもって役割をこなしてくれました。互いを信頼すること、尊重することは NP プログラムの精神でもあります。それが実践されていたと思える実行委員会でした。

当日は、東京のほか加須市や長野、秋田で活動するトボスの会の報告があり、伊志嶺さんの基調講演からはカナダで生まれた NP の背景を知りました。実践報告は 3 つとも興味深い内容で、時間が足りないほど、ポスターセッションは一目で各団体の活動が理解できて、皆さん盛んに情報交換していました。分科会は 5 つのテーブルに分かれて行われ、熱心な話し合いができました。NP ってやっぱり素晴らしいね！ 元気をもらいました、地域に帰って頑張ります！等々、ポストイットに書かれた一つひとつの言葉が、これからの NP プログラムの広がりになるような気がします。

ボランティアを快く引き受けて下さった皆さん、交流会に賛同頂き協賛金にご協力くださった方々、お陰様で滞りなく実施できましたこと、ここにお礼申し上げます。この交流会を後援して下さった北区へもお礼申し上げます。

皆さま、ありがとうございました。また、トボスの会でお会いできれば嬉しいです。

全国NPファシリテーター交流会 第1分科会

① 「子育て環境の変化への対応」A グループ 渡邊暢子 (記録：川島初江)

自己紹介の後、気になっていることを書きだして分類した結果、「情報」「本音」「支援、イベントの充実(受身)」「母子関係」に分類されました。その中から一つ「母子関係」を取り上げ、経験学習サイクルにのせることになりました。母子関係の現状、なぜそうなるのか・・・状況や背景を考える・・・皆さん日頃感じている母親と子どもの関係の問題点が活発に出されました。さらに、どうやったら支えていけるのかを考え、母親たちの意見を出し合うようにした、本当に必要なのは自立ではないか、母親の運営委員会を立ち上げる、母親が考える場を作る、等々活発な意見交換ができました。

プログラムを展開している時だけでなく、ファシリテーターとしてこれらの問題を日頃どうとらえていくことが大事なのか・・・考えさせられる時間になりました。時間が短かったこともありますが、トレーナーとして、十分に問題整理ができず、中身を深められなかったことに力不足を感じています。

全国NPファシリテーター交流会 第2分科会

② 「NP プログラムを地域に広げ、活かすために～行政や他機関と取り組んでいくには～」 芹澤文子

NP プログラムと共に、子どもたちが育ちゆく地域や社会、日本に想いを重ねながら日々取り組んでいるファシリテーターの皆さん、学んでいる方々が一堂に会する機会を持ち、各地での取り組みと実践の報告を身近に感じた、たくさんの方がつくりあげた交流会でした。会の中で、上田市の「ながのトボスの会」を紹介させていただきました。長野県では茅野市や飯田市で取り組んでいらっしゃる方々の地域・行政と協働した取り組みがあり、各地の素晴らしい実践をお聴きする機会に恵まれました。そこから学び、つながることを大切にしたいと思いました。

分科会では、参加者の想いを共有し、「NP を地域に広げ活かすために、行政や他機関と取り組んでいくには」での課題を出し合いました。それぞれの状況から学び合うことが出来、聴いてその時感じた気づきやつぶやきを模造紙に想いのまま書き加えてもらいながら少しずつ共有しました。お互いが真剣に耳を傾けていました。だからこそ、もっと話したかった、そんなところで終わる形になったこと。ファシリテーターとして、皆さんの想いを語り合える方法を取り入れることが必要だったと思い、今後の課題です。一緒に参加してくれた皆さん、ありがとうございました。より豊かな子育て社会に向かって！共に。



分科会の様子

全国NPファシリテーター交流会 第3分科会

③「NPプログラムが目指すもの」に参加して 木村弘美

我が家の庭に植えられているバラのつぼみがきれいに開きました。不思議なことにそのバラは、一本の幹から薄いピンク色と白に近い黄色の花が咲くのです。実はこれはNPファシリテーター交流会の会場に置かれていたもので、縁あって私が持ち帰り育てていたものです。エンパワーという言葉がありますが、本来花自身が持っている力か、当日会場にいらした皆さんの力がこのようにきれいな花を咲かせているのではと感じています。

私たちは日常生活の中で喜びもあれば様々な不安や悩みを抱えています。自分の世界の中だけで抱え込んでしまうと、まるで出口のない真っ暗なトンネルの中にいるかのように思いがちです。しかしそのとらわれているものから少しずつ開放されると、本来の自分を取り戻して行くことが出来ます。この過程を体験できるのがNPプログラムであると思います。一人ひとりを大切にしながら、メンバーが緩やかに変容し、グループが成熟していく道筋に立ち会っていくことがファシリテーターの役割であると思います。

第3分科会では、プログラムに参加した親の気づきや変化について共有した後、そのような親自身の変化やありようがもたらすもの、つまりNPプログラムが目指すものについて検討しました。「学び合い」「尊重」「支え合う力」「仲間の力」「自己肯定感」「自己有用感」「エンパワーメント」「前進する力」「みんな違ってみんないい」「子育ての自信」など数多くのキーワードが挙げられましたが、どれも大切なものでありこのプログラムが生み出しているものです。

冒頭のバラの花のように同じ色でも微妙に色合いが違います。人も互いに微妙な違いを感じ合い、大切に受け止めて、相互に適度な安心出来る関係を持ちながら、その人らしく生きていくことの出来る社会が、このプログラムの目指すところでもあると思います。

この分科会は、今の私たちの取り組みを見つめつつ、このプログラムの持つ可能性や原点について考える時間になりました。

NPプログラム講座を中核にすえた特定非営利活動法人「CLIP in すわ」の活動

—長野県茅野市からの報告—

NPO法人「CLIP in すわ」 理事長 本間佐男

長野県茅野市は、八ヶ岳の裾野に位置する人口約5万5千人の高原の町である。この町で、保育・保健福祉・体験活動の実践に長年携わってきた者やお寺の住職など9名で、NPO法人「CLIP in すわ」を立ち上げてから今年は9年目になる。

「CLIP in すわ」は、親の背中を見せながら自信をもった子育てができる「親育ち」に寄与することを目的に、0歳から就学前の子育て真っ最中の親を対象に、幾つかの事業を実施している。子育てを応援する人の輪を広げたいと願う連続講演会（講師：伊志嶺美津子さん、松居直さん、鎌田實さんなど）、親子で参加する昔話や心と体のリフレッシュ講座、芋堀りなどの自然体験講座などであるが、中核にすえているには「NPプログラム講座」である。

「NPプログラム講座」は、年間複数回、継続して実施してきたが、3年前から茅野市の委託事業として認定され、現在は年間5講座（1講座14名で週2時間の6回）を開催、毎年60名以上が受講している。伊志嶺先生のNPファシリテーター・ステップアップ研修を受け、NPプログラムのよさと講座運営の力量を高めながら進めている。NPプログラム講座実施の要諦は、信頼される託児の体制とこの講座を必要とする受講者集めである。茅野市の自慢は、保育士資格を持つ方を中心に託児体制が充実していることである。

6週間の講座期間を通して、参加者は互いに学び合い、親としての自分の姿を自ら肯定的に見つめられるようになる。そして、ファシリテーターとしての私たちも、講座の度に謙虚な自分に立ち返り、高められた喜びを実感している。NPプログラム講座のこのよさを、地域の「子育て・親育ち」の確かな力にしたいと願って活動を継続している。



カナダの父親支援

NP-Japan 認定トレーナー 福川 須美 永田 陽子

子育て支援のカナダ視察をした2004年、カナダでは国が父親の子育て支援(My Dad Matters...)を推進していました。その責任者Tim Paquette氏から、カナダの父親支援の実情を伺い、多くに鼓舞されました。2002年から2年間の父親の育児を推進する施策で、父親が育児に参加したくなるようなポスターや冊子、ビデオ等たくさんのツールが開発され、それらのツールを自由に支援者が利用できるようになっていました。そし

て、TVでの広報もされていると聞き、驚いたものです。

2015年3月カナダのFamily Resources Program (FRP) 40周年全国大会に先立ち、父親支援者全国大会がハミルトンで開催されました。カナダ各地からの父親支援の実践者や研究者が参集しました。想像以上に、男性参加者が多いのに驚きました。K. Pruett氏は、父親と母親の異なるかわりが子どもの成長にプラスに作用していると研究成果を講演されました。



ワールドカフェの様子

支援者がテーマを設定して座り、参加者は興味のあるテーブルに行き話を聞き、意見交換をするワールド・カフェも行われました。私たちは、Father Involve Network (FIN) の2代目の責任者 Brian Russell の基調講演や父親支援の実践者たちに話を伺うことができました。



手前の打楽器をたたき、父子の時間を持つ

黒人の居住が多い地域には、その文化に重点をおいたサポートハウス・Ujima-House があります。父親支援の施設があるのはここだけだそうです。30歳までの若い父親を対象として、育児だけでなく雇用など父親のニーズに合わせたサポートを他の団体と連携して実施しているとのことでした。プレイルームやキッチンなど、さまざまな活動を考えた施設となっていました。自分たちのルーツを大切にし、誇りを持てるような配慮があちこちにみられました。例えば、人形は色白ではなくブラウンの肌色であったり、壁にはアフリカのポスターが貼ってある等です。打楽器を利用した父子の時間も素晴らしいアイデアです。

Early Years Center では、英語、日本語とさまざまな言語のお知らせがプレイルームの壁に貼ってありました。夏は外でも遊ぶが、訪れた3月は雪が積もっており、庭は使えないとスタッフが説明してくれました。父子の空手のクラスに参加するために来た父親のTシャツの胸には「今日はお父さん、やるぞー」のロゴが。カメラを向けるとおおにこにこの父親でした。



10年前にカナダを訪ねた時には、男性の支援者を見つけるのが大変と言っていた Paquette 氏の言葉が思い出され、カナダでの変化を感じた研修となりました。



T-シャツの胸には - Be a DAD Today - のロゴが入っている↑
「今日は、空手の父子クラスに参加するために来た」



喪失体験をのりこえる子どもたちと共に ～悲しみから希望へ～

レインボウ・ジャパン代表 檀田 紋子

私たちは誰もが生まれたその瞬間から“自分づくり”をはじめています。そして人生の長い道のりの中でいくつもの様々な喪失を体験し、つまずいたり、傷ついたり、のりこえたりしながら“ほんとうの自分”を見つける旅をしているのではないのでしょうか。レインボウが対象とする子どもは、その旅の途上で親の離婚や死別、虐待などによって、また自然災害や事故など社会的な問題によって親しい人、もの、慣れ親しんだ環境など拠りどころとなる大切なものを喪失して苦しんでいる子どもたちです。

つらい喪失体験と結びついた悲しみの感情を受容するにはとても時間がかかります。癒されぬまま心に閉じこめられると心的外傷となり生涯を通して深刻な影響を与えてしまうことがあります。一方で最近の研究では心的外傷後にもポジティブな成長があるということが報告されています。それ故にどんなにつらい体験でも自分の人生の中に起こった意味のある出来事として受けとめることが大事なのだと思います。しかし自我の発達過程にある子ども一人でその意味づけを行うことは難しく大人の情緒的な支えが欠かせません。

レインボウ・プログラムに参加する子どもたちは、ファシリテーターと共に仲間同士で気持ちを交わし合い、学び合いながら“悲しみの旅”をゆっくり歩いてゆきます。レインボウでは安全に旅をすすめるために一人ひとりが「ジャーナル」をもち、ことばにならない悲しみの感情を表現し、認識することでそれぞれの悲しみを受容できるようになり新たな希望に向けて踏み出してゆきます。

3. 11以降、喪失体験はマイナスの面だけでなく肯定的な側面に目が向けられるようになってきました。たとえば家族の絆、地域の支え合いの力、人と人の繋がりがありようなどが見直されたことも一つの現れであると思いますが、喪失のケアについても多様なアプローチが模索されており、とくに喪失体験をした子どもたちへのグループ・アプローチが重視されてきています。私たちが福島で実施している「シルバーライニング」はピアサポート・プログラムで、現地のボランティアの方々との協働によって実践することができました。これから「レインボウ」をすすめる中で実践モデルの一つになるのではないかと思います。

「レインボウ」は、2014年度初めて一般向けのファシリテーター養成講座を開催いたしました。今年度も同時期に定例開催をいたします。講座では参加者一人ひとりをエンパワーするグループ技法を中心に学びますので、子どもや親支援に関わる方に役立つことでしょう。一緒に学びませんか。レインボウを必要としている子どもは残念ながら年々増加しています。ファシリテーターとなられた方が当センターに登録していただき、それぞれの領域の特徴を活かして活動を広げていってくださるよう心から願っております。

レインボウ・ファシリテーター(A)&コーディネーター(B)養成講座

(A) 2016年2月6日(土)10:00~17:00 受講料 10,000円 テキスト 3,000円

(B) 2016年2月7日(日)13:00~16:00 受講料 5,000円 テキスト 1,000円

※出張養成講座は、これまでと同じく随時開催いたします。

(最終ページのインフォメーション「5.」をご覧ください。)



スージー・マルタ著「シングルシンフォニー」より



「繰り返される“別れ”の中で」

シルバー・ライニングプロジェクト代表 永田 陽子

原発事故から避難した大熊町の小学生とのかかわりが5年目の2015年度は、大野小と熊町小両校、1,2年生合同のスマイルタイムです。2年生3名と1年生5名の少人数、住居の関係で多くの家族がいわき市へ移動したためです。昨年度スマイルタイムを受けた子ども達も、半数は転居したと伺いました。再三再四、子ども達は友だちとの別れや慣れた場所から離れる経験を積み続けています。この事情を理解している大人の私が自分の身に置き換えただけでも、憂鬱な気分になり自棄になってしまいそうです。10歳に満たない子ども達は、この事態をどんな気持ちで消化しているのでしょうか。

今年度5月から始まったスマイルタイムは1学期に6回までが終わり、最後のお祝いの会を夏休み明けに実施しました。写真は、小学校のブログに掲載されたスマイルタイムの様子です。とても元気なお子さん達です。スマイルタイムが始まった頃は、友だちに対抗する姿やなかなか気持ちも表現しない子もいました。聴いてもらえるとわかると、そっと自分の気持ちをファシリテーターに話すその表情は満足そうでした。最初気持ちを言えず、友だちの名前をつけたぬいぐるみのクマにその悔しさをぶつけていましたが、後半では、クマの名前を変えかわいがる対象になっていました。友だちとの関係が変わった結果でした。自分の将来を考える回では、書いたことを「皆の前で発表したい」と子ども達から希望が出るほど、友だちを意識するようになりました。

今年で熊町の小学校在校生すべての子どもがスマイルタイムを受けたことになりました。きょうだいでスマイルタイムの話になることもあるようです。

人々の生活を混乱させ、見通しを持ってない状態をもたらす原子力発電は人が扱ってよいものなのか？との問いに結論が出ないうちに、川内原発1号機再稼働(8月11日)の報道がされました。東日本大震災後の福島県大熊町の支援を続けていると、安心・安全が当たり前の社会を次世代に渡したいと切に願います。



今年度も、子ども家庭リソースセンターのみなさんによる「スマイルタイム」が1,2年生を対象に、帰りのスクールバス出発前の時間を利用して、水曜日(年7回)に行われます。これは、養成研修を受けた現地ファシリテーター(会津若松市民と大熊町民)が付き添い、安心して被災体験後の感情をわかち合い、それらを乗り越えて希望を見い出せるようにするものです。





2015 年度スケジュール

1. NP 体験プログラム オリエンテーション 年 4 回

第 1 回 2015/4/19(日)終了、第 2 回 2015/7/19(日)終了、第 3 回 2015/10/18(日) **募集中**、第 4 回 2016/1/31(日) **募集中**
 時間は全て 13:00～16:00、会場は CFRC。受講料 2,000 円(テキスト代 500 円別)。定員 20 名。お申し込みは開講 2～1 か月前に CFRC 事務局まで。

2. NP ファシリテーター養成講座 年 4 回

- (1) 通常講座 第 1 期 2015/5/16(土),17(日),23(土),24(日) 講師:伊志嶺美津子 終了
- 第 2 期 2015/8/22(土),23(日),29(土),30(日) 講師:木村弘美 終了
- 第 3 期 2015/11/22(日),23(月祝),28(土),29(日) 講師:永田陽子 **募集中**
- 第 4 期 2016/2/20(土),21(日),27(土),28(日) 講師:福川須美 **募集中**



カナダ NP テキストより

(2) 出張講座 2014 年度は、宮城県石巻市、秋田県秋田市、などで開催

※(1)(2)とも時間は全て、前半 2 日間で 9:30～16:30、後半 2 日間で 9:30～17:00、会場は CFRC。受講料 70,000 円(テキスト代 2,000 円および教材費は別)。資格申請される場合は、資格申請料 10,000 円が別途必要です。定員 12 名。お申し込みは開講 3～1 か月前に CFRC 事務局まで。

3. NP アフタープログラム 年 2 回

第 1 回 2015/7/26(日)終了、第 2 回 2016/2/14(日) **募集中**
 時間は全て、フォローアップ研修は 9:30～12:30、ステップアップ研修は 13:30～16:30、会場は CFRC。受講料各 3,000 円。定員各 20 名。
 お申し込みは開講 2～1 か月前に CFRC 事務局まで。NP プログラム実施にブランク(～2年間)のある方は、特にご受講をお勧めします。

4. 子ども家庭リソースセンター「NP の会会員」について

- ・NP ファシリテーター養成講座修了生は、全員加入です。年会費振込口座は、このページの「寄付のお願い」欄の銀行口座と同様です。
- ・年会費は、1,000 円です。会員期間は 4 月から翌年 3 月までで、年度更新になります。(年会費のご案内は、会報と一緒にお届けします。)
- ・会費は、NP の会会員のへのサポートを強化し、質問・相談に随時応じます。NP にかかわるホームページの運営、会員へのサポートや連絡、NP 実践をバックアップするために使われます。
- ・当センター会報(年 2 回発行予定)を送付します。
- ・会員対象の NP フォーラムを年 1 回開催。会員同士の交流、情報交換、ファシリテーション技能のステップアップを図る研修等を行います(予定)。
- ・事務所を、NP の会会員にも開かれた場にします。ご入会は、CFRC 事務局まで。
- ・転居ほか、住所や連絡先等がかわる際には、CFRC 事務局まで必ずご連絡願います。

5. レインボウ・ファシリテーター (A) & コーディネーター (B) 養成講座 ～喪失体験をのりこえる子どもたちへの援助～

(A) 2016/2/6(土) 10:00～17:00 受講料 10,000 円 テキスト代 3,000 円 (修了後は、レインボウ・ファシリテーター有資格者となります。)
 (B) 2016/2/7(日) 13:00～16:00 受講料 5,000 円 テキスト代 1,000 円 (受講対象は、レインボウ・ファシリテーター有資格者です。)
 会場は全て CFRC。定員各 10 名。お申し込みは開講 3～1 か月前に CFRC 事務局まで。講師:櫃田紋子、伊志嶺美津子他 **募集中**
 ※出張養成講座は、これまでと同じく随時開催いたします。

〇トポスの会(自主的なファシリテーターの会) 年 4 回

2015 年 6 月、9 月、12 月、2016 年 3 月、に開催。全て日曜日。時間は 13:00～16:00、会場は CFRC。当センターの NP ファシリテーター養成講座修了生は、どなたでも参加できます。(当日会費会員 300 円、非会員 500 円)。トポスの会に関するお問い合わせは、CFRC 事務局まで。

寄付のお願い

被災児の心のサポートプログラム実施のために、ぬいぐるみや材料費、被災地へ出向く交通費等が必要です。皆様からのご援助をお願いいたします。
 【お振込み先】 ゆうちょ銀行 口座記号・番号 00130-4-651522 加入者名: NPO 子ども家庭リソースセンター

～ ご質問、お問い合わせ等は、下記の CFRC 事務局まで ～



NPO 法人子ども家庭リソースセンター (略称: CFRC)

- 所在地 〒114-0002 東京都北区王子 2-18-12 ドムス王子 1 階 ○TEL/FAX 03-6755-2855
- E-mail info@kodomokatei.com ○URL http://kodomokatei.com/
- 交通機関 JR 線王子駅 北口改札から徒歩 8 分、地下鉄南北線王子駅 5 番出口から徒歩 7 分

編集後記 「いまだかつてない・・・」という気象庁の声明にドキッとした方、少なくないと思います。また新しい言葉「東日本豪雨」ですが、自然災害の爪跡にいたたまれない気持ちです。被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。(S)

編集・発行: NPO 法人子ども家庭リソースセンター
 発行日: 2015 年 10 月 1 日

